

大豆の吸実性カメムシ類の発生に注意しよう！

令和8(2026)年8月
河内農業振興事務所

大豆を吸汁加害するカメムシ類は、主にホソヘリカメムシ、イチモンジカメムシ、アオクサカメムシ、クサギカメムシ等です。

近年では南方に多い「ミナミアオカメムシ」が徐々に生息域を広げており、河内地域でも発生が確認され、今後注意が必要です。

下記の防除対策を適切に実施しましょう。



ホソヘリカメムシ



イチモンジカメムシ



アオクサカメムシ



クサギカメムシ



ミナミアオカメムシ



カメムシ類の吸汁による被害粒

●防除対策

- ・カメムシ類は、8月中旬から大豆ほ場に侵入し始め、9月中旬～10月中旬にかけて発生が多くなります。
- ・定期的なほ場観察を心がけ、**早期発見、早期防除**に努めましょう。
- ・**開花15日後（莢伸長期）～9月下旬（子実肥大後期）**が最も重要な防除期間です。
- ・薬剤防除は、10～14日間隔で散布するのが効果的です。
- ・ハスモンヨトウやベと病、紫斑病などの発生にも注意し、適用病害虫を考慮して薬剤を選び、効率的に防除しましょう。
- ・薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統、同一RACコードの連用を避けましょう。

栃木県農業防災LINE
友だち登録はこちら



「カメムシ防除作戦」HP

